

ふるさとに暮らし続ける ことができるまちづくり

西胆振地域における 定住自立圏構想の取り組み

問い合わせ
企画グループ
☎85 1122

定住自立圏形成協定の 案がまとまりました

西胆振の6市町は、平成22年2月に『西いぶり定住自立圏形成推進協議会』を設置し、現在、定住自立圏の形成へ向けた協議を行っています。このほど、今後の連携を想定する取り組みの基となる協定案がまとまりました。

この協定案には、医療や防災、観光、環境、教育、ICT※1、地産地消、人材育成についての連携が記されており、9月の登別市議会定例会への提案を予定しています。

今後は、中心市の室蘭市と協定の締結を目指すとともに、連携する内容の詳細について、さらに協議を進めます。

協定の目的

中心市宣言をした室蘭市とそれに賛同した登別市が協定を締結することで相互に役割を分担し、連携を図りながら

定住に必要な都市機能や生活機能の確保・充実を図るとともに、地域資源を活用した経済の活性化と交流の促進に努め、安心して暮らし続けることができる定住自立圏を形成することを目的としています。

基本方針

協定の目的を達成するため

に、さまざまな政策分野の取り組みで相互に役割分担と連携を図り、共同し、または補完することとしています。

連携する取り組みと役割分担

協定に基づき取り組む政策分野は、表のとおりとなっていますが、詳細な内容は、今

後、室蘭市が設置する予定の民間や地域の関係者で構成する『共生ビジョン懇談会』※2や、それぞれの自治体の担当者からなるワーキンググループで協議することとなっています。

目的達成のための連携や協力、費用負担

目的の達成に取り組むため相互に役割を分担して連携し、または協力して事務の執行に当たるものとし、必要な費用が生じるときなどはその都度協議して、相互の受益の程度を勘案し当該費用を負担することとなっています。

※1 ICT

Information and Communication Technologyの略で情報通信技術のことです。従来頻繁に用いられてきた『IT』とほぼ同様の意味で用いられています。

※2 共生ビジョン懇談会

『共生ビジョン』とは、『定住自立圏共生ビジョン』のことで、中心市が定住自立圏の圏域の将来像や、協定に基づいて推進する具体的な取り組みなどについて要綱に記した内容のことです。懇談会は、そのビジョンの内容について協議する場です。

連携政策分野		取り組み内容
生活機能の強化	医療	【地域医療体制の充実】 圏域内の医療機関間の連携を促進することにより、住民の安心を支える地域医療体制の充実を図る。
	防災	【地域防災体制の充実】 有珠山噴火をはじめとする災害時の相互応援体制を構築するとともに、市立室蘭総合病院の医療従事者による災害派遣医療チーム（DMAT）を編成し、地域防災体制の充実を図る。
	観光	【広域観光の推進】 室蘭市のものでづくり資源や、登別温泉・洞爺湖温泉、洞爺湖有珠山ジオパーク、縄文遺跡群など圏域の観光資源を活用し、広域的な滞在型・体験型観光の推進を図る。
	環境	【地域環境関連活動の推進】 省エネ・省資源などにかかわる住民の環境意識向上や、温室効果ガスの削減に対応した事業者の取組支援、不法投棄の防止など、圏域における環境関連活動の推進を図る。
		【再生可能エネルギーの導入促進】 地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入を促進し、低炭素社会に対応した圏域のエネルギー利用を図る。
教育	【広域学校教育の推進】 室蘭工業大学や室蘭市青少年科学館との連携による理科教育、ものづくり教育の充実をはじめ、圏域の資源を活用した総合学習の推進により、広域的な学校教育活動の推進を図る。	
	【広域社会教育の推進】 洞爺湖有珠山ジオパーク・縄文遺跡等の地域資源の活用、室蘭工業大学・青少年科学館との連携により、広域的生涯学習を推進し、生涯学習人材の育成・活用に連携して取り組むとともに、文化・スポーツ活動等における連携促進により、広域的な社会教育活動の推進を図る。	
結びつきやネットワークの強化	ICTネットワーク	【行政情報ネットワークの推進】 地域に密着した暮らしの安全・安心情報等に関するメール配信システムをはじめ、図書館の広域利用や教育情報システムの共同化など、行政情報ネットワークの構築を推進する。
	地産地消	【西胆振農水産物の消費拡大】 地元で生産される農水産物の圏域内での消費拡大を図るため、地元農水産物の消費啓発活動を推進し、圏域における地産地消を促進する。
圏域マネジメント能力の強化	人材育成	【人材育成の推進】 行政機能の多様化、高度化に対応した人材の育成を図るため、合同による研修や室蘭工業大学との連携による研修等を行う。